

平成28年度前期 授業改善計画書

学 部 名	食産業学部
学 部 長 名	西川正純
1. 学生の授業アンケート結果から、学部全体で改善すべき重点課題(3つ挙げる)	
①	各教員とも授業の理解度を深めることに重点を置いているが、内容の難易度が高く理解が進まない学生が少なからず存在している。難しい箇所はより丁寧な説明を行う必要があるが、その一方カリキュラムマップに沿った関連科目の基礎から応用への連続性などの再チェックが必要であると考え。
②	上記に関連するが、予習復習など授業外での学修ができていない。事前、事後、自己学習について教員側から適切な課題提示や学修方法の説明などが必要であると考え。
③	授業評価の回収率が従来に比べかなり低く改善が急務である。従来は授業時間の終了間際に回答時間を設けていた教員が多かったことから、最終授業での声掛けだけでは不十分と考える。
2. 上記のそれぞれの課題を解決するために必要な取組	
①	授業の終わりにコメントカード等で質問や疑問点を提出させ、次回の授業で詳細に解説すると共に、ピア・サポートシステムの導入を推進する。また、関連科目間の講義内容の一貫性・連続性を確認する。
②	学生自らが復習時間や予習時間を設ける仕組みとして作りとして、宿題や小レポートを課したり、適時小テストを実施すること、さらにグループ討議など学生が能動的に学修へ参加するアクティブラーニング型授業の導入を一層推進する必要がある。
③	新入生はパソコンを購入することから授業時間内での回答が可能と考える。2、3、4年生、院生については、意識を高める取り組みもさることながら、授業時間内、或は終了後にコンピュータラボに向かわせ回答させる工夫も必要と考える。
3. 上記のそれぞれの取組を具体的にどのように進めていくか	
①	授業改善計画書については、4、5月の教員会議や教授会、学科会等で情報の共有化をはかる。また、関連科目間の講義内容の一貫性・連続性については、学群・研究科教務ワーキングチームを中心に確認作業を実施する(4～5月)。ピア・サポートシステムについても SSC、学群・研究科学生ワーキングチームを中心に推進する。
②	事前、事後、自己学習についての学修方法の必要性を4、5月の教員会議や教授会、学科会等で周知・共有化を図ると共に、宿題や小レポート等の活用法やアクティブラーニング型授業の技法に関する講習会を学群・研究科教務ワーキングチームを中心に企画・実施する。
③	授業評価のコメントに、授業毎のコメントカードから授業改善に繋がる内容を盛り込むことなど、学生からの声が随時授業改善に活かされるように取り組んで行く。また、授業時間内、或は終了後に授業評価の回答時間を設けるなどの工夫について、4、5月の教員会議や教授会、学科会等で協議する。
4. 参考となる良い授業改善事例について、学部全体でどのように共有するか	
教員会議や教授会で事例を紹介すると共に、アクティブラーニング型授業の技法を含め模擬授業のミニFDを適時開催し、情報の共有化を図る。	